

◆ 今ここで頑張っています ◆

私見：仕事の覚悟

三菱ガス化学株式会社 脱酸素剤技術センター 品質保証チーム
奥石(尾崎) 祥子(新制48回)



入社して12年が経ちます。企業研究5年目で化学物質過敏症の診断を受け、研究職をドロップアウトした私のキャリアは、研究(2000年4月～)⇒広報・IR(2004年12月～)⇒品質保証(2011年5月～)と言うもので、転属と言うよりは転職に近いものです。もっとも、会社や業界を俯瞰する部署で積んだ経験は私の財産であり、現業務でも大いに活用しています。

私の勤める三菱ガス化学(株)はやや保守的な社風の中堅化学系メーカーですが、“女性が働きやすい会社”として某就職支援サイトで紹介されたことがあります。その根拠は女性従業員の平均年齢。わが社では男女ともほぼ40歳で拮抗しているのですが、これにはからくりがあります。それは、年齢層の高い未婚女性が多いと言うこと。現実には、既婚や子持ち女性はまだまだ少数派です。

私は、2008年にその少数派に属すようになってから、周囲の女性従業員に“どうやったら育児と仕事を両立できるの?”“子供がいても、そういう働き方もできるんだと励みになる”などと声をかけられるようになりました。声をかけてくる方には普段接点のない方も多く、それだけ“仕事と育児”の問題への関心の高さ、不安の大きさを感じました。

ちなみに“そういう働き方”と言われる私の選択は、会社の中でも稀有だったようです。制度ができて以来初の育児休業・短時間勤務制度非利用者。第2子のときはさすがに育児を4ヶ月ほど取得しましたが、復帰後の勤務も以前とあまり変わりません。もちろん、定時帰宅や突発的な休みは増えましたが、残業・泊まり出張も普通に対応、職場の宴会にも参加しています。さすがに1次会止まりになりましたが。

このような勤務スタイルを選択するにあたり、私は周囲に助言を仰ぐ中で、3つのことを決めました。

壱:開き直ること

「幼児を抱えて仕事をするなら、開き直らないと自滅するよ」とは、第1子出産にあたり、出産前後のプランの相談に乗ってくれた人事担当者の言です。「仕事を続けるなら、そのことを子供に対して申し訳ないとは絶対に思わないこと。」これは、昨秋亡くなった母がくれた言葉。どちらも座右の銘としています。

弐:時間はお金で買うこと

当たり前のことですが1日は24時間、体はひとつしかないの、時間短縮のための投資は惜しみません。食洗機、洗濯乾燥機、ルンバ、ネットスーパー、ベビーシッター。駅徒歩6分の距離に住みながら、駅近くに駐車場を借り(保育園送迎用。12分/日の短縮)、会社最寄り駅には駐輪場&自転車(20分/日の短縮)。iPad2にポケットWi-Fi(これはまあ、趣味も兼ねていますが…)。「まともに働くなら、一人分の稼ぎは必要経費として消える。でも、一過性のことだから。」これは1年の1/3は出張をしている姉の言葉です。

参:自分への評価は後輩のものとし心すること

今、私が働きながら子育てをできるこの社会は、諸先輩方(主に女性)の無念と執念を土台にしています。そして、私も後進のためにしっかりとした道、多様な道を残していかなければなりません。私の子持ちの立場に甘えて、仕事をおろそかにすれば、私への評価は後輩の道を険しくすることにつながります。前述の人事担当者ですが、こうも言っていました。「あなたがやれば、後が続く」と。

とまあ、それっぽいことを書き連ねましたが、実際のところ結構お気楽に過ごしております。それが一番の秘訣?仕事と育児の両立に不安を抱いていらっしやる方々、案ずるより産むが易し、です。